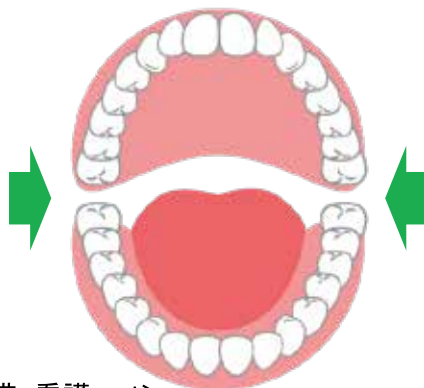


テーマ：口唇を傷つけずに歯科治療をする

■ 背景

- 個人差はあるが、口はとても小さな器官なので、治療のときに医療器具が入りにくいことがある。口を広げ、器具を挿入するが、直接、器具が口唇に当たる場合がある。口を広げる際には、注意深く行わなければ口唇や特に口角を傷つけてしまうことがある。患者さんにとっても苦痛であることは言うまでもない。



<出典：看護root!>

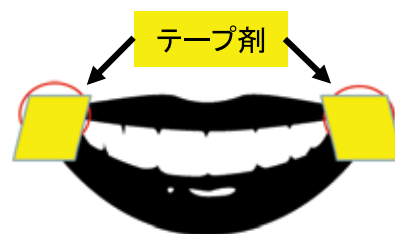


■ 現状の対処法

- 口角へ簡便なテープを貼って治療しているが、治療中にすぐはがれてしまい、現実的には歯科医師や歯科衛生士が注意しながら治療を進めている。

機能アイデア例

- 適度な粘着力は必要
- 口唇・口角になじむ機能(伸縮性と湿潤にフィット)
- 物理的に保護できる程度の強度
- 治療後口唇・口角から剥がし易いこと
- 接触過敏症などのアレルギー性を持たないこと



■ 市場性

- 歯科医療機関を受診した患者が人口に占める割合は14.5%と報告されている(令和3年厚労省調査、<https://www.mhlw.go.jp/content/10804000/000742124.pdf>)。歯科口腔外科では歯および歯周疾患は勿論のこと、口腔癌、外傷治療、顎骨炎など様々な歯関連疾患の治療を行っている。
- 食べることはフレイル予防の観点からとても大切である。社会の高齢化に伴い、歯の形態回復から口腔機能の維持・回復へと歯科の主業務がシフトしていくと予想されている。
- 滋賀医科大学附属病院の2021年度診療実績では、周術期口腔機能管理を行った患者数は1,942件、外来手術件数は567件に上る。そのうち、口唇保護が必要な割合100%となっている。

■ 歯科口腔外科ホームページ

<https://www.shiga-med.ac.jp/hospital/doc/department/department/dentistry/index.html>